

府内歯科医療機関

主な施設基準の届出状況
新設の口菌検はわずか10施設

2022年6月1日現在の大阪府内歯科医療機関(医科併設除く)の施設基準の届出状況は表のとおり。

4月の診療報酬改定で新設された口腔細菌定量検査(口菌検)の届出は10施設0.2%にとどまる。施設基準の要件として訪問診療料の算定実績が減少した「在宅療養支援歯科診療所2」(歯援診2)は666施設で12.2%。「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」(か強診)は、1086施設で19.9%だった。6月1日現在の保険医療機関数(医科併設除く)は、診療所5463施設。

Table with 3 columns: 届出項目, 届出件数, 届出率. Lists various dental facility standards and their compliance rates.

戦争リスク高める軍拡



軍事費を積み上げれば「軍事対軍事」ではなく、憲法の平和主義に基づき外交・安全保障政策を貫くべきです。唯一の戦争のリスクを高める

2022年度の日本の軍事費は国内総生産(GDP)比1%弱の約5兆4千億円で、世界9位の

参院選では平和と憲法が大きな争点になっていきます。「抑止力」の名の下に果てしない軍拡競争に身を置くのか。平和国家の道を追求して東アジアの緊張緩和へ力を尽くすのか。日本の進路が問われています。

軍事費5兆円を社会保障にすれば...

- 大学・大学院の学費無償化 3兆3000億円
小中学校の給食費無償化 4451億円
医療費窓口負担の無料化 5兆1837億円
消費税の2%減税 4兆3146億円
年金受給額を一人12万円増額 4兆8612億円

選挙に行こうよ!街頭宣伝



10日投開票の参院選へ向け、「おおさか医科・歯科九条の会」は6月18日、大阪高島屋前で選挙に行こうと呼びかけた(写真)。歯科協会から、戸井・矢部両副理事長ら役員9人が参加した。戸井氏は「軍事費2倍化を止め、誰もがいつでもお金を気にせず医療を受けられる権利を守ろう」と訴えた。

戦争被爆国として核廃絶の先頭に立つことが求められます。物価高のいま、軍事費を増やす財源があるなら暮らしに使ってほしいというのが多くの人の願いではないでしょうか。

例えば、消費税2%減税の予算は4兆3146億円です。医療費窓口負担の無料化は5兆1837億円、小中学校の給食無償化は4386億円あれば実施できます。軍拡競争の先に未来はありません。平和外交の原則を守り社会保障を充実させるために、私たちの選択が問われています。

協会は、消費税をなくす全国の会作りのパンフ『消費税ってどんな税金?』と、納税者権利憲章をつくる会(TCフォーラム)作成の不当な税務調査から納税者を守るためのパンフを希望者に無料で配布している。消費税のパンフは、1989年に導入された消費税が社会保障に使われず、大企業や超富裕層の減税の穴埋めに使われた実態を告発。国際比較や税のあり方を通して、消費税の問題を考える内容になっている。

税務調査対策



消費税問題



パンフを希望者に

TCフォーラムは2つのパンフを作成。『質問応答記録書とは何か』は、調査官が証拠固めを狙って頻りに使われるようになってきている記録書について、作成協力を求められた場合の具体的な対応策をまとめている。『納税者支援調整官を使いこなそう』は、税務調査や職員への対応について苦情を受け付ける調整官制度の活用方法を解説している。希望者は協会事務局(Tel 06-6568-7731)まで。

大阪大学大学院歯学研究所 口腔細菌学教室 教授 川端 重忠 講師 住友 倫子
口腔や鼻腔を含む上気道から感染するインフルエンザウイルスは、歯科医療においても留意すべきウイルスの一つであります。日本国内だけでも年間1千万人がインフルエンザに罹患し、多い年では高齢者を中心に1万人が重症肺炎で亡くなります。肺炎が重症化する理由の一つとして、口腔や鼻腔に常在する細菌による細菌性肺炎の合併が挙げられます。しかし、ウイルス感染が細菌感染を助長させる詳細なメカニズムは解明されていませんでした。肺炎を悪化させるGP96の発見 私たちの研究室では、インフルエンザウイルスと高齢者の口腔内からも検出される肺炎球菌をマウスの上気道に同

歯学研究が開く 歯科の未来 ⑭ インフルエンザに罹ると細菌性肺炎を合併しやすくなる原因を発見

時に感染させることにより、ヒトの重症肺炎の病態を再現するマウスモデルの構築に成功しました。ウイルスが感染したマウスの気道組織では、細胞内の小胞体に局在する分子GP96が表面化し、細菌の定着を促す「足場」として機能することが明らかになりました(図)。上気道に定着した細菌は、このGP96を利用して下気道まで伝播し、重症肺炎を惹き起こすことがわかりました。肺炎の治療薬の開発に向けて インフルエンザに合併する細菌性肺炎の治療には、抗インフルエンザ薬に抗菌薬が併用されますが、使用量の増加にもなう薬剤耐性ウイルス株や耐性細菌株の出現が問題になっていきます。私たちは、肺炎を悪化させる責任因子であるGP96の働きを抑制する化合物が肺炎の治療薬として有効かどうかを検討しました。GP96の表面化を抑える化合物をマウスの気道に投与することにより、細菌の下気道への伝播と肺炎の発症を抑制することができました。GP96は感染初期に誘導されるストレス応答性のタンパク質であるため、インフルエンザだけでなく、幅広いウイルスや細菌が原因となる肺炎の発症を制御できる可能性があります。現在、インフルエンザに加えて、新型コロナウイルス感染症に対する治療薬への応用も視野に入れ、精力的に研究を展開しています。

インフルエンザに合併する細菌性肺炎の重症化メカニズム

